

令和6年度 第1回 三朝町総合教育会議 会議録

開 会 日	令和7年2月19日(水)
開 催 場 所	三朝町役場2階 第2会議室
出 席 者	松浦弘幸町長、西田寛司教育長 塩谷俊樹教育委員、加藤るみこ教育委員、村岡麻梨教育委員、松浦靖明教育委員
欠 席 者	な し
説明等の出席者	赤坂副町長、青木地域振興監、矢吹総務課長、角田教育総務課長、谷川社会教育課長、毛利図書館長、福田教育総務課長補佐、吉竹指導主事
協 議 事 項	(1) 三朝町教育大綱の見直し検討結果について
報 告 事 項	(1) 三朝町生涯学習推進プラン(仮称)検討委員会の検討状況について
そ の 他	(1) 小中連携の推進について (2) 三朝小学校と台湾石岡区土牛小学校の交流について

会 議 の 内 容

- 1 開 会
事務局
午前10時59分
・ 令和6年度第1回三朝町総合教育会議を開会する。
- 2 あいさつ
町長
教育長
・ 小学校が10月から供用開始となり、小中連携と併せて学校教育を取り巻く全般的なことについて情報交換ができればと思っている。
・ 大雪警報が出れば即休校にするということで、教育委員の皆さんにもご協議いただいた経緯がある。
・ 中学校では高校の特色入試が始まり、まずまずの結果となっている。一般入試も始まるので、中学生の頑張りに期待しているところ。
・ 教育大綱については順調に進んでいると捉えており、教育委員会の中でも大きく変える必要はないとご協議いただいているところ。
・ 日ごろ思っていることについて意見を出してもらいたい。
- 3 会議録署名委員
の指名
・ 本日の会議録署名委員は、加藤委員と村岡委員を指名する。
- 4 協議事項
事務局
(1) 三朝町教育大綱の見直し検討結果について
(資料により説明)
・ 1年前の総合教育会議で本件について提案し、ご協議いただいたところ。
・ 現行の大綱は令和2年5月に策定しており、令和10年度までの9年間で計画期間としている。策定から4年が経過する中、中間見直しを行った。
・ 現行の総合計画との整合性については、基本理念、実現のための基本方針ともそのまま維持するものと判断している。

- ・ 県の大綱、教育振興基本計画等参酌すべき計画、意識する視点を確認しても、今回、本大綱を改訂する必要はないと判断している。
 - ・ 県の教育振興基本計画で示された考え方については、今後、みささっ子教育ビジョンの検証においてその反映を検討することとしたい。
- 事務局
- ・ 昨年 12 月の教育委員会定例会で協議した結果、今回見直しの必要はないと判断しているところ。
 - ・ 大綱の改廃については町長の権限によるものであるため、今回の総合教育会議で判断を仰ぎたい。
- 町長
- ・ 教育委員会の中で検討されたものであり、社会情勢が大きく変化しているわけでもないので、私としてはこの見直し検討結果でいいと思っている。
 - ・ 年少人口の減少が顕著であり、次の大綱や教育ビジョン改訂の際に考えなければならないこととして、こういった人口規模の中でこういった教育の体系をつくるかが重要だと思う。
 - ・ 家庭教育の部分が学校教育への影響が大きいと考えている。
 - ・ 10 年以内に小中学校全てのクラスが 1 クラスとなりそうだが、財政上の問題もあり、中学校を新校舎に入れることを早めるのは難しい。ただ、考える必要があるのは、小中学校を今の形のままとするのか、義務教育学校とするのかということ。
 - ・ 県教委の義務教育学校における教員の育成というところも非常に重要な部分であるので、ここ 3～4 年のうちにその方針をどう組み立てるかが大事。これから教育委員会でしっかり協議してもらいたい。
- 事務局
- ・ その他、何かご意見、ご質問があれば。
- 各出席者
- (意見なし)
- 事務局
- ・ 町長から話があったとおり、教育委員会での協議の結果、今回改訂する必要はないとの判断とさせていただきますが、よいか。
- 各出席者
- ・ はい。

5 報告事項

- 事務局
- (1) 三朝町生涯学習推進プラン（仮称）検討委員会の検討状況について
(資料により報告)
- ・ 「生き活きプラン 21」は平成 10 年に策定されてから 26 年が経過し、多様化する社会情勢等や生涯学習を取り巻く環境の変化に対応するため、このたび新たな生涯学習推進計画を策定するもの。
 - ・ 計画期間は令和 7 年度から令和 10 年度までの 4 年間とし、必要に応じて適宜見直しを行う。
 - ・ 今年度、策定委員会による 6 回の会議の中で協議を重ね、基本理念と 4 つの基本目標、それぞれに対応する基本施策を定めた。
 - ・ 点検・評価は社会教育委員会が年 1 回実施し、結果はホームページで公表する。
- 町長
- ・ これは今日の会議での議決事項ではないから、誰が発言しても構わないか。
- 事務局
- ・ はい。

- 町長
- ・ 生涯学習自体は子どもから高齢者までが学ぶことを意味しているので、これを否定するつもりはないが、「生涯学習」という言葉自体が、国や県も組織がなくなっており、アピールとして現代において住民にわかりやすい言葉なのかどうか疑問。
 - ・ 三朝町の計画なのに、基本理念の4項目全てにあえて「みささ」とつけることがふさわしいかどうか。
- 教育委員
- ・ 生涯学習活動に参加している人がごく一部だと感じている。社会人を卒業してから学ぶ人が少なくなっているのではないかな。
 - ・ 三朝町の全ての人が何か学ぶ機会があれば、それが生涯学習と呼べるのではないかな。
 - ・ 義務ではないが、ある年齢になると学ぶ機会が提供されるような仕組みがあれば生涯学習になるのではないかな（交通ルール、人権など）。
- 事務局
- ・ いただいたご意見も含め、これからパブリックコメントをして町民の皆さんからのご意見も反映させていけたら。
- 副町長
- ・ 基本理念と基本目標がどうか。本来、基本理念とするような内容が基本目標になっていて、基本理念はキャッチフレーズのようなものになっている。
 - ・ 基本目標が名詞で終わっており、理解しにくい。
 - ・ 計画の骨格をもっと明確化した方がよい。後からは直せない。
- 事務局
- ・ 持ち帰って検討させてもらう。
- 町長
- ・ 計画の趣旨と位置付けが混合するとぼんやりしてわかりにくくなる。
 - ・ この概要ではわかりにくいので、本編にしっかり書いてあるか確認してほしい。

6 その他

- 教育長
- (1) 小中連携の推進について
- ・ 現段階では、新校舎に中学校が入り、小中そのままの形をとると、財政上の問題が生じることになる。ただ、将来的に国の考え方が変わる可能性もあるので、選択の余地はある。
 - ・ 義務教育学校を念頭に置こうとしているのは、教員の不足に伴って、特に中学校の5教科以外の教員配置が厳しいので、小学校教員で中学校の免許を持つ教員に中学校でも授業をしてもらうことが可能となるため。現在も、校舎が近くなったので、兼務辞令での対応を進めようとしているところ（補助的な役割で）。
 - ・ こうした取り組みにより、小中の風通しがよくなれば、今以上に小中の連携がやりやすくなるという見通しを持っている。
 - ・ 現在は、ふるさとキャリア教育と英語教育、ICTの情報教育の関係で、9年間、あるいは15年間なりの取り組みを計画して実施してもらっている。
 - ・ その点検は、コミュニティ・スクールの学校運営協議会あたりで見ってもらうことになっていくのではないかなと思っている。
- 町長
- ・ 今年度、教育委員会は大洗を視察されたが、あそこは専科と小中連携を共用しており、義務教育学校を考える際にいい事例だと思っている。

- ・ 最近、三朝の学校で中1ギャップがあると感じているが、義務教育学校にすると中間の学年が大事になると思っており、そこをきちっとするといいい環境になると思っている。
 - ・ 大洗に行かれてどんな感想を持たれたか、聞いてみたい。
 - ・ 空き教室をうまく活用してしっかり小中連携ができていていると感じた。
 - ・ 先生方が一人ひとり、小中連携を意識した学校経営、学級運営をされることが大事だと感じた。
 - ・ 中学校が長年されてきた研究発表に小学校も一緒になって取り組まれており、小中通った大きな柱があることが大事だと感じている。
 - ・ 教育大綱や教育ビジョンを教員にきちんと伝えていかないといけない。
 - ・ 先生方がどう思って取り組んでくれるのが大事。
 - ・ 先生方への教育を学校に任せるのではなく、役場も一緒になって取り組む必要があると思う。
- 教育委員
- 教育委員
- 教育長
- ・ 大洗の校舎は前の教育長の時代に建てたもの。
 - ・ 現在の教育長は社会教育をよく知った人であり、学校教育だけでなく、生涯学習を見通したビジョンを持っていると感じた。
 - ・ 理科教育が盛んな時期の校舎であり、力を入れている。
 - ・ 三朝小では現在、国語に力を入れており、中学校も揃える方向で動いてくれている。
 - ・ 委員の言われたとおり、教育大綱や教育ビジョンを教員にどう浸透させていくかが一番大きな課題。
- 町長
- ・ 県の行う教員人事について、町の取り組みを進めることに理解のある人を管理職にすることが大事だが、そこが県に届いていない。
 - ・ 人事に直接関わるのは教育長だが、それをサポートするのは教育委員会の役割として大きいこと。
- 事務局
- 各出席者
- 事務局
- ・ その他、意見があれば。
(意見なし)
- (2) 三朝小学校と台湾石岡区土牛小学校の交流について
- ・ 今年度、石岡区の幼稚園と賀茂保育園の交流が始まっており、小学校同士の交流もしたいという思いを石岡区の土牛小学校長から聞いているところ。
 - ・ その思いを受け、三朝小学校長と土牛小学校長のオンライン会議が11月に行われ、今後の交流について意見交換がなされた。
 - ・ 令和7年度からは児童間のオンライン交流も始まるような流れとなってきたが、単なる会話の交流にとどまらず、保小中で連携して取り組むミースプログラムに基づく英語・外国語やICTを活用した交流を行うことで、学習面においても実りある交流にできればと考えている。
- 教育委員
- ・ 交流自体は良いことだと思うが、小学生はどういったやり方がいいのかなと考えるところ。
 - ・ 中学校が相互派遣をしているのであれば、小学校まではオンラインと、段階を踏むのがいいのかなと思う。
- 町長
- ・ 委員と同じ考え。

- ・ 台湾のあの辺りの地域は、昔から海外との交流に熱心なところがあり、過去にもイングリッシュスクールの生徒が来ていた。
- ・ 1月に訪台した際にも、行政の集まりに学校長が参加していた。区として交流が認知されている。
- ・ 三朝町としては、小学生はオンラインでのやり取りからスタートするのがいいと思っている。賀茂保育園もそうしており、その後、中学校になってから派遣という流れがいいと思う。
- ・ 英語でコミュニケーションをとる自信をつけさせることが大事。オンラインでも十分対応できる。
- ・ 仮に石岡の小学生が来たら、ホームステイで対応する。
- ・ 中学生の派遣について、ホストファミリーを条件とするのはわかるが、幅を持たせて柔軟に対応することが必要。学校で決めつけてしまうと、本来伸ばせる力も伸ばせなくなってしまう。
- ・ 今の予算では、人数は現状で限界。
- ・ 弁解させてもらおうと、ホストファミリーは受けることで派遣希望を有利にするというもの。
- ・ 子どもは受けたいけど親が反対するという話は聞いており、学校からの伝え方を改善したい。

教育長

7 閉 会

事務局

それでは、以上をもって令和6年度第1回三朝町総合教育会議を閉会する。

午前11時58分